

森本 あんり著

不寛容論

アメリカが生んだ「共存」の哲学

アメリカの歴史と思想を下敷きとして、現代社会を象徴する鍵概念を描き出すことに定評がある著者が、このたびあらたに選んだテーマが寛容と不寛容である。寛容論といえは、哲学や政治思想では王道的テーマであるが、本書はこのテーマに、一般読者にはいさか馴染みの薄い題材を経由してアプローチしていく。その題材とは、今日のアメリカのロードアイランド州の礎となったプロヴィデンス入植地を築いたピューリタン、ロジャー・ウィリアムズである。ウィリアムズは政教分離を主張し、マサチューセッツ植民地を代表する同時代の神学者ジョン・コトンとのあいだに激しい論争を引き起こしつつ、植民地建設のなかで政教分離を実践した人物

である。本書は、激しさと誠実さを併せ持ったウィリアムズ思想と行動を、初期アメリカ史ならびに同時代の思想史と絡ませながら、かれの半生そのものをつうじて寛容と不寛容をめぐる問題系へと迫っていく。

もしかして、著者自身のストレートな寛容論を期待していた読者のなかには、その一見して遠回りともみえる描き方を訝しく思う者もいるかもしれない。だが、抽象度の高い哲学的考察でも現代社会分析でもなく、一七世紀の英国とニューイングランドの植民地という歴史のしつらえからこみえてくるものは、著者自身の言葉を用いれば寛容と不寛容の「せめぎ合い」である。英国本国での宗教的迫害を逃れて新大陸に渡ったピューリタ

他人の信仰を認めること

寛容と不寛容をめぐる在り方と可能性を見出す

井上弘貴

ンたちは、自分たちが支配する側となるや、少数派のバプテスマやクエーカーを迫害し始めた。そうしたマサチューセッツ植民地の不寛容さを激しく批判し、そのためにそこから追放されたウィリ

バ、不寛容を批判している者が不寛容に手を染めざるを得なくなる皮肉をドラマチックに描き出すうえで、歴史という舞台は本書にとって不可欠だと言える。

とはいえ本書は、誰もかれもみな現実には寛容でいられないというシニカルな結論を導き出すことを目的とはまったくしていない。歴史的考察に根差しつつ、必ずしも歴史主義的ではない本書が示唆するのは、ウィリアムズが先住民との交流から得た「礼節」の重要性である。自分にとって信仰がかげがえのない尊いものであることを知っているからこそ、仮にそれが自分には理解できない信仰であっても、他人の信仰もまた、同じようにかけがえのないものである。本書によればウィリアムズは、誰に対しても礼拝を妨害することを嫌った先住民との交流をおして、このことを学んだという。晩年のウィリアムズがクエーカーを批判したのは、かれらがこの礼節を欠いているとみえたからだだった。しかもウィリアムズは、みずから不寛容を神学論争と

であり、かれらの信仰を妨害したり、ましてや弾圧したりしたわけではなかった。本書はウィリアムズのごうした無骨なふるまいのなかに、寛容と不寛容をめぐるあり方と可能性を見出している。宗教的熱心から寛容が引き出されることは十分にありつつ、本書のメッセージのひとつである。

本書は寛容をめぐる、目の醒めるような視点や結論を出すことをあえて意図的に避けている。ひとりの人間としてまったく直情径行で、ときに不寛容でありつつも、結果としてきわめて寛容な植民地を生み出したウィリアムズの生き様をつうじて、わたしたちをふるまえないということとを本書は示唆してくれている。(このうえ・ひろたか)神戸大学准教授・アメリカ政治思想史

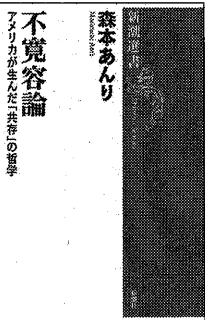
ンたちは、自分たちが支配する側となるや、少数派のバプテスマやクエーカーを迫害し始めた。そうしたマサチューセッツ植民地の不寛容さを激しく批判し、そのためにそこから追放されたウィリ

バ、不寛容を批判している者が不寛容に手を染めざるを得なくなる皮肉をドラマチックに描き出すうえで、歴史という舞台は本書にとって不可欠だと言える。

アムズだったが、みずからがプロヴィデンス、そしてのちには複数の託植地を連合した植民地内部の争いを調停する立場に立つと、かつての自説を否定するかのようになり、晩年にはクエーカーへの辛辣な批判をおこなうことになる。立場が変われ

た。本書によればウィリアムズは、誰に対しても礼拝を妨害することを嫌った先住民との交流をおして、このことを学んだという。晩年のウィリアムズがクエーカーを批判したのは、かれらがこの礼節を欠いているとみえたからだだった。しかもウィリアムズは、みずから不寛容を神学論争と

★もりもと・あんり 国際基督教大学教授・神学・宗教学。国際基督教大学卒。著書に『反知性主義』『異端の時代』など。一九五六年生。



不寛容論
森本あんり
アメリカが生んだ共存の哲学

四六判・298頁・1600円
新潮社
978-4-10-603860-6
TEL. 03-3266-5111